

ギョーザ事件 男拘束

中国当局 製造元の元工員

【北京＝古谷浩一】中国政府は26日夜、2008年1月に起きた中国製冷凍ギョーザ中毒事件で、中国捜査当局が日本向け輸出用ギョーザに毒を入れたとして、製造元の臨時工員だった中国人の男を拘束した、と日本政府に通告した。日中間の外交問題に発展した食の安全をめぐる事件は、発生から2年余りで大きな進展を見せた。

新華社通信によると、男はギョーザの製造元である河北省石家荘市の「天洋食品」の元臨時工員で、同省出身の呂月庭容疑者(36)。食堂の管理人だったとの情報もある。取り調べに対して容疑を認めており、給与などの待遇に不満があり、ギョーザに毒を入れることでこころした不満を晴らそうとしたのが動機だという。当局は犯行に使われたとみられる注射器を押収。日本の警察庁によれば、注射針に農薬成分メタミドホスがつい



事件発生後の2008年2月15日に、報道陣に公開された天洋食品の作業場＝中国河北省石家荘市

ていたのが決め手となったという。また、多数の目撃証人も得ている模様だ。

事件は2008年1月、天洋食品製の冷凍ギョーザを食べた千葉・兵庫両県の10人が中毒症状を訴えたことで発覚。日本側は事件の早期解決を中国側に求め、両国間の重要外交課題となった。